

平成三十一年度 国語問題

【一】 次の各文の傍線部の漢字として正しいものを一つ選び、答えをマークしなさい。

- ① 他人をアザムく。 (ア・欺 イ・擬 ウ・偽 エ・疑)
- ② 試験に向けイ識を上げる。 (ア・異 イ・射 ウ・意 エ・委)
- ③ 年末の決サイで忙しい。 (ア・斉 イ・剂 ウ・債 エ・済)
- ④ 規模の大きい割に平バンである。 (ア・版 イ・板 ウ・判 エ・盤)
- ⑤ フ遍的な経験に基づいて行動する。 (ア・普 イ・不 ウ・符 エ・負)

【二】 次の各四字熟語の空欄にあてはまるものを一つ選び、答えをマークしなさい。

- ① 一朝一□ (ア・石 イ・夕 ウ・跡 エ・責)
- ② 行雲□水 (ア・隆 イ・竜 ウ・留 エ・流)
- ③ 自□自得 (ア・合 イ・郷 ウ・業 エ・剛)
- ④ □心暗鬼 (ア・偽 イ・疑 ウ・擬 エ・義)
- ⑤ 一刀両□ (ア・断 イ・弾 ウ・団 エ・段)

【三】 次の①～⑤の対義語を語群の中からそれぞれ一つずつ選び、答えをマークしなさい。

- ① 内容 ② 差異 ③ 真実 ④ 創造 ⑤ 容易

ア・同一 イ・困難 ウ・形式 エ・模倣 オ・虚偽

【四】 次の①～⑤の語の意味を一つ選び、答えをマークしなさい。

- ① 特殊

- ア・限られたものにしか当てはまらないこと。
- イ・特別に扱うこと。
- ウ・殊に忙しいこと。
- エ・範囲が狭いこと。
- オ・中身がたくさん詰まっていること。

- ② 相対

- ア・他との比較とはかわりなく成り立つこと。
- イ・他との対立によって獲得した特異なこと。
- ウ・他と融合することによって成り立つこと。
- エ・他との比較において成り立つこと。
- オ・他との間接的な交わりによって成り立つこと。

- ③ 肯定

- ア・空虚なこと。
- イ・そうでないと打ち消すこと。
- ウ・背中で受け流すこと。
- エ・定まった考えのこと。
- オ・その通りであると認めること。

④ 異端

- ア・集団の端にいること。
- ウ・端々まで気を配ること。
- オ・飛び抜けた能力を発揮すること。
- イ・他人と異なった格好をすること。
- エ・正統からはずれていること。

⑤ 例外

- ア・他から例をもつてくること。
- ウ・例としてはずすこと。
- オ・危険なことが起こること。
- イ・原則からはずれていること。
- エ・いつもどおりであること。

【五】 次の各文の傍線部の意味を一つ選び、答えをマークしなさい。

① 彼は休日をいたずらに過ごす。

- ア・出かけて過ごす
- イ・充実して過ごす
- ウ・いたずらをして過ごす
- エ・無駄に過ごす

② 一日に本を一冊読むのが関の山だ。

- ア・読むことが精一杯だ
- イ・読むことが余裕だ
- ウ・読むことは無理だ
- エ・読む約束だ

③ 昨日の出家事は晴天の霹靂と言うべきだ。

- ア・楽しい事件
- イ・思いがけない事件
- ウ・悲しい事件
- エ・腹の立つ事件

④ 私と彼は気の置けない仲である。

- ア・親しい
- イ・気づかいしなくてよい
- ウ・昔からの
- エ・あまり話さない

⑤ 断腸の思いで、大事にしていたものを捨てる。

- ア・古くなってしまった
- イ・壊れてしまった
- ウ・新たなものへの楽しみ
- エ・非常な悲しみ

【六】 次の各文の傍線部と同じ意味用法のものを選び、答えをマークしなさい。

① この主人の態度にはととしたからである。

- ア・三階から落ちた。
- イ・あまりにおいしいからつい食べ過ぎた。
- ウ・ここから先には行けない。
- エ・全員集まってから出発すべきだ。

- ② また同じクラスになるなんてうれしい。
ア・彼は選手であり、また監督でもある。
イ・これはまた、どういうことですか。
ウ・あなたとまたお会いいたしましょう。
エ・車でも行けるし、また飛行機でも行けます。

- ③ 母は子がやはりいい子であったのだと、うれしかったそうだ。
ア・京都へ行くとうと誘われたら、彼も行きそうだ。
イ・彼は雪の降るころ北海道へ行くそうだ。
ウ・今年の台風第一号は例年より早そうだ。
エ・学校もそうだが、家でも勉強しよう。

- ④ 彼が試験で一位だったことは確かなことらしい。
ア・どうやら彼は学生らしい。 イ・あたらしい生活を始める。
ウ・わざとらしいことをするな。 エ・先輩らしい行動をとる。

- ⑤ 休むのはそのためばかりではなかった。
ア・八歳ばかりの子どもがいる。 イ・寝坊したばかり、遅刻した。
ウ・買ったばかりの時計が壊れた。 エ・口先ばかりで実行しない。

【七】 文学史について次の各問に答えなさい。

- ① 小林多喜二の作品を一つ選び、答えをマークしなさい。
(ア・地獄変 イ・蟹工船 ウ・檸檬 エ・風立ちぬ)
- ② 森鷗外の作品でないものを一つ選び、答えをマークしなさい。
(ア・舞姫 イ・雁 ウ・高瀬舟 エ・三四郎)
- ③ 「金色夜叉」の作者を一つ選び、答えをマークしなさい。
(ア・尾崎紅葉 イ・泉鏡花 ウ・夏目漱石 エ・二葉亭四迷)
- ④ 「伊勢物語」と同じジャンルの作品を一つ選び、答えをマークしなさい。
(ア・竹取物語 イ・源氏物語 ウ・大和物語 エ・落窪物語)
- ⑤ 「万葉集」の歌人でない人を選び、答えをマークしなさい。
(ア・額田王 イ・山上憶良 ウ・大伴家持 エ・舍人親王)

【八】次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

自然環境はあまりにも大きなシステムで、自分が構成要素であることを見失うぐらいだが、他方、物理的に小さなシステムもある。細胞はその代表である。ふつうは百個並べると、ほぼ一ミリになるぐらいの大きさである。とはいえ、小さいからシステムとして単純だというわけではない。細胞の構成要素は、タンパク質だけでも種類はおそらく万の桁に上る。その他にも糖、脂質、核酸、さらには金属イオンなど、さまざまな要素も含む。それほど多くの要素が①相互作用したり、変化したり、出入りする。こうして、細胞というシステムは、自分で栄養を採り、エネルギーをつくり出し、いらぬものを捨て、必要に応じて分裂して増える。つまりそれ一つで、生きものの基本的性質をすべて備える。だから単純細胞生物が存在するのである。

細胞というシステムの特質は、システムの安定を保つために、つねに自らを修正していくことである。それを進化と呼ぶ。歴史的には、つまり（Ⅰ）的には、システムは次々に新しいシステムを取り込んでいく。②ミトコンドリアは細胞に共生した生物だと見なされるのである。

人間が人工的に細胞をつくり出すことは、いまのところ不可能である。いま細胞をつくることができると思っている研究者も、ほとんどいないであろう。システムの原理もわからないし、そもそも何万種類もの要素が絡み合っている系を、どうやってつくれるというのか。「実際の細胞を観察して、個々の要素が時間とともにどのように変化し、どのように相互作用するかを調べて、それをまねればいい」という意見もあるかもしれない。（A）、何万種類もの成分量を刻々と正確に測定する方法はない。細胞についてなにかを測定しようとすれば、その操作で細胞の状態は変わってしまう。（ア）

最近では、生物のゲノムを解明しようという試みがさかんである。ゲノムとは、ある生物がもっている遺伝情報をすべて合わせたものである。この遺伝情報は、DNAの塩基配列という記号で書かれている。ゲノムの解読とは、塩基配列をすべて調べることである。これまで基の総数は三十億対、遺伝子の数は三万数千と計算されている。そういうニュースは大きく報じられるから、生物学をあまり知らない人たちは、これで生命の秘密はわかるだろうという気分になるかもしれない。

そう思うなら、③それは間違いである。生物は生きて動いているからである。生物や細胞は遺伝子に書き込まれた情報を読み取り、動いているシステムである。だから、遺伝子だけがわかっても、読みとりシステムである細胞はわからない。誤解しないでほしい。遺伝子を調べても意味がないといっているわけではない。遺伝子で理解できる範囲のことは、遺伝子を調べれば理解できる。だが、それで生物がわかると思ったら、話が違う。それがシステムはわからないということなのである。新聞さえ読めば、世間がわかるか、テレビを見ていけば、世間がわかるか。DNAを読んでも生物はわからないというのは、それと同じことである。（イ）

遺伝子で生物がわかるとい立場に立つと、システムも遺伝子がつくり出しているようにみえてしまう。（B）、細胞の中のAとBというタンパク質が相互作用して結合する場合に、「タンパク質AとBが結合するように遺伝子が指令している」と表現することがある。しかし、タンパク質同士の相互作用の仕方自体が、遺伝子に情報として記されているわけではない。細胞が遺伝子の情報からタンパク質Aをつくり、別の遺伝子からBをつくると、細胞というシステムのなかで、タンパク質AとBが結合する必要があるということが別にあり、遺伝子はそういうタンパク質を（Ⅱ）するための暗号となっている。もちろん、その「場」というのを設定しているのも、遺伝子ではないか、つまり他の遺伝子ではないかという議論はできる。それを続けていけば、システム全体がやがて理解できる。それがこれまでの科学が暗黙に約束することである。その約束を信じるか否か、それはほとんど信仰の問題になってしまふ。

リチャード・ドーキンスというイギリスの生物学者が『利己的な遺伝子』（紀伊國屋書店）という本を書いた。ドーキンスは「生物の主体は遺伝子で、遺伝子が自らを生き延びさせるために、個体という乗り物を利用して」という比喻を語った。自分の複製を残しやすい遺伝子ほどよく生き残る、成功者だというわけである。（ウ）

そこで見落とされていることがある。それは、十九世紀ドイツ、ヴェルツブルグ大学の病理学教授だった、ルドル

フ・ウィルヒョウの有名な言葉にある。「すべての細胞は細胞から」ということである。すべての細胞は、親細胞から生まれた。その親細胞は、そのまた親細胞から生まれている。だから、進化の過程ですつと永続しているのは、明らかに遺伝子「だけ」ではない。細胞というシステムもまた、一度も滅びたことがない。(エ)

そう考えれば、ドーキンスのいうことは(Ⅲ) 的だとわかる。④ 遺伝子という「情報」と細胞という「システム」を区別せず、情報が滅びずに残ってきたことを強調している。情報が存続するのは、じつは当たり前である。十年前の私の写真は、私自身に関する情報であり、それはいまでも「生き残っている」。ところが十年前の私自身は、もうどこにもいない。⑤ 現代社会は逆を常識としているから、多くの読者と同じように、ドーキンス自身もそれに騙されているのであろう。いつも「同じ私」が存在しているが、情報なんか日替わりだ、と。これこそが西欧近代が発明した真つ赤な嘘である。

実際には細胞というシステムも残ってきた。むしろ、細胞というシステムがずつと生きてきたから、その一部である(Ⅳ) も存続してきた。そういう言い方のほうが正確であろう。それを彼はひっくり返していった。だから、インパクトがあったのだが、それを信じ込んだら、それは事実誤認である。むしろ不思議なのは、細胞というシステムが生きてきたことである。細胞というシステムが存続してきたからこそ、人間がいまここに生きている。システム問題の本質がそこにある。

【出典 養老孟司「いちばん大事なこと―養老授業の環境論」 集英社新書】

問一 この文章には次の一文が欠落している。本文中の(ア) (エ)のどこに入れたらいいか。最も適当な箇所を一つ選び、答えをマークしなさい。

その論拠は、進化の過程で個体はつねに滅びてきたが、遺伝子はずっと滅びないできたという点にある。

問二 傍線部①「相互作用」の意味内容の説明として、最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、答えをマークしなさい。

- ア・タンパク質、糖、脂質は変化するが、核酸、金属イオンは変化しないことをいう。
- イ・タンパク質同士の変化のみによって、遺伝子に情報を伝え変化を促すことをいう。
- ウ・タンパク質などの要素が接触、変化し、単純細胞が自ら増え、分裂することをいう。
- エ・DNAの塩基配列という記号で書かれている遺伝子情報のことをいう。

問三 本文中の空欄(Ⅰ)・(Ⅲ)に入る最も適当な語句を次のア～エの中から一つ選び、答えをマークしなさい。

- ア・(Ⅰ) 発展 (Ⅲ) 両面 イ・(Ⅰ) 進化 (Ⅲ) 一方
- ウ・(Ⅰ) 経済 (Ⅲ) 基本 エ・(Ⅰ) 現代 (Ⅲ) 政治

問四 傍線部②「ミトコンドリアは細胞に共生した生物だと見なされる」理由として、最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、答えをマークしなさい。

- ア・ミトコンドリアは、滅んだ後、仲間と結合し生き返ることができる生物であるから。
- イ・ミトコンドリアは、緑色をしているため生物の一種としてみなすことができるから。
- ウ・ミトコンドリアは、日々結合を繰り返し成長していく生物であるから。
- エ・ミトコンドリアは、何も変化せず死ぬまで同じ状態を保つことができる生物であるから。

問五 本文中の空欄(A)・(B)に入る最も適切な語句を次のア～エの中から一つ選び、答えをマークしなさい。
ア・(A) しかし (B) たとえば イ・(A) つまり (B) したがって
ウ・(A) そして (B) もちろん エ・(A) だが (B) ところが

問六 傍線部③「それ」は具体的に何を指しているのか。最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、答えをマークしなさい。
ア・生物が持っている遺伝子の塩基配列をすべて調べるということ。
イ・遺伝子を知ること、生物の生命の秘密を知ることができるということ。
ウ・遺伝子に書き込まれた情報を読み取り、仲間と結合することができるということ。
エ・遺伝子の仕組みを調べることは生物が生きる上で意味があり、必要だということ。

問七 本文中の空欄(Ⅱ)に入る最も適切な語句を次のア～エの中から一つ選び、答えをマークしなさい。
ア・化学合成 イ・意気投合 ウ・取捨選択 エ・適宜合成

問八 傍線部④「遺伝子という「情報」と細胞という「システム」」の内容の説明として、最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、答えをマークしなさい。
ア・情報は毎日決まったものを伝え、システムは生き続け、やがて減じるものである。
イ・情報は長い年月がたてばいつかなくなってしまふものであり、システムもいつかは減びてしまふものである。
ウ・情報はいつかなくなってしまふものであり、システムは自分で栄養を採りエネルギーをつくり出すことが出来るものである。
エ・情報は減びず、その時間を残し続けるものであり、システムは安定を保つため進化し続けるものである。

問九 傍線部⑤「現代社会は逆を常識としている」の内容の説明として、最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、答えをマークしなさい。
ア・私たちの身体は日々変化を続けているが、写真は変わらずその時間を映し出しているということ。
イ・私たちの身体は日々変化を続けており、写真は過去の自分を映し出しているものであるため、意味が無いということ。
ウ・私たちの身体は日々変化を続けているため、常に新しい写真を撮ることが大切だということ。
エ・私たちの身体は日々変化を続けているためすべてのものは減びず、生命は生き続けているということ。

問十 本文中の空欄(Ⅳ)に入る最も適切な語句を次のア～エの中から一つ選び、答えをマークしなさい。
ア・タンパク質 イ・遺伝子 ウ・システム エ・人間